

同志社大学

同志社社史資料センター報



第18号
2021年度

1.巻頭言:2021年度の報告にあたって

2.コラム:スタークウェザー没後100年を迎えて

—同志社女学校史における女性宣教師「校長」時代研究の、
これまでとこれから—

同志社大学障がい学生支援制度発足20年を経て未来へ
—「支え合う志」をつないで—

3.資料業務

4.『同志社百五十年史』編纂

5.展示・公開講演会

6.研究活動

7.第179回新島襄生誕記念会

8.ハリス理化学館同志社ギャラリー

9.新島旧邸

10.委員会

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月20日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。

3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、広報部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。

3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

(附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

2021年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 服部 伸

2021年度の同志社社史資料センターは、2020年度に続いて、新型コロナウイルス感染症の流行をにらみながらの活動を余儀なくされた。具体的には、10月、11月にはいったん収束の気配を見せたものの、年明けには再び感染者が急増し、年度末までそれに対する対応に追われることになった。

ハリス理化学館同志社ギャラリーでの展示活動は、創意工夫をこらしながら行うことになった。前年度3月から始まった第22回企画展『『支え合う志』をつないで―障がい学生支援制度発足20周年―』（主催：学生支援センター障がい学生支援室〔現・スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室〕・社史資料センター）は、社史資料センターとしては1年半ぶりの企画展となった。その後もギャラリーとしては、感染状況を見ながら慎重に計画を進め、10月には第23回企画展「平安遷都前の京都盆地―飛鳥・奈良時代のムラと寺―」（主催：歴史資料館）を、1月には第24回企画展「旧制から新制へ―同志社大学の挑戦―」（主催：社史資料センター）を開催した。とくに、第24回企画展では、2月26日に大迫章史氏をお招きして公開講演会を開催する予定であったが、これも感染拡大の影響で、オンラインによる開催にとどめざるをえなかった。また、10月には美術部クラマ画会の後期展や書道部の二回生展、12月には同じく書道部の玄冬展やグローバル・コミュニケーション学部虹プロジェクトの写真展などが開催された。

こうした中、社史資料センターでは、所蔵資料の整理、対外調査、種々のレファレンス業務など、地道に日常業務を推進した。紀要類についても、『新島研究』『同志社談叢』『新島襄生誕記念懸賞論文入選作品集』などを、予定通り発行することができた。ただ、研究会活動の一部や前述の公開講演会など、感染拡大の影響を受けたものも少なくなかった。一日も早い収束を心から願うものである。

最後になるが、2020年7月に始まった『同志社百五十年史』編纂事業は、第1回配本予定の第3巻の目次案を作成し、それに基づいて執筆依頼を始めることができた。編纂室でも、新聞検索をはじめとする調査活動を精力的に行い、第1巻、第2巻の編纂に備えているところである。

以上、今年度は感染拡大の影響を最小限に抑えつつ、多くの事業を推進することができた。これも、日頃から社史資料センターを支えてくださっている同志社内外の皆さんのご協力のおかげである。この場を借りてあらためてお礼を申し上げ、2021年度の報告とさせていただきます。

スタークウェザー没後100年を迎えて

—同志社女学校史における女性宣教師「校長」^{注1}時代研究の、これまでとこれから—

坂本 清音

2021年10月2日、法人同志社・女子大学・女子中高及び同窓会共催で「スタークウェザー没後100年記念祈祷会並びに記念の集い」が開かれた。この集いの契機となったのは、八木谷涼子氏によるスタークウェザーの没年月日と埋葬地の発見である。氏の功績に感謝するとともに、これを機に、これまでのスタークウェザー研究を振り返り、今後の展望を記しておきたい。

スタークウェザー研究の始まり

同志社女学校の前身「京都ホーム」創設者であったにもかかわらず、スタークウェザーの知名度は決して高くなかった。そのスタークウェザーの研究を筆者が始めるようになったのは、1989年に始まり5期15年続いた同志社大学人文科学研究所のプロジェクト「アメリカン・ボード宣教師文書」の研究からである。

同志社関連の宣教師文書は、日本ミッション・京都ステーションの年間報告と、宣教師個人の報告書簡を主としている。研究員はそれぞれ特定の宣教師を担当し、マイクロフィルムに収められた書簡の活字化、内容の紹介をしつつ討議を行った。文書はほとんどが手書きだったので、癖のある文字を読み取ることは、ある種職人技のような根気のいる作業であった。しかし、文書を通して未知の「リアルタイムでの創設期同志社の姿」を明らかにしていく、得難い研究の機会を与えられた。

「知られざる同志社女学校史」の解明へ

女子大学から参加した研究員として、筆者は女学校に赴任した女性宣教師の文書を担当した。初代A.J.スタークウェザーを皮切りに、次々と女学校に派遣された女性宣教師たちの文書から見てきたのは、女学校現場での彼女たちの働きだけでなく、その旅支度、渡航費、給料、ついには校舎建立の募金までを支援したウーマンズ・ボード（アメリカン・ボードと協力して活動する女性団体）の姿であり、広く19世紀アメリカの女性史研究にまで繋がるその存在意義であった。

また、これらの文書はこの時期の同志社女学校史の解明に役立つだけでなく、同志社の女子教育の礎と、その後の流れを系統づける大切な資料となることも分かってきた。ここで得られた知見は様々な媒体を通して発表する機会を与えられ、女子大学が初めて編纂した単独の年史『同志社女子大学125年』（2000）にも、宣教師文書解読の成果として寄与することができた。^{注2}

女子大学卒業生への女性宣教師研究の広がり

宣教師文書解読の成果については、2004年から2005年にかけての女子大学英語英文学会の卒業生対象セミナー「同志社女子大学のルーツ」でも5回にわたって講演を行なうことができた。それがきっかけとなり2009年からは、女子大学卒業生有志とともに宣教師文書のマイクロフィルムからの活字化、英文書簡の本格的翻訳を開始した。これは「宣教師文書研究会」として、10年を超えて現在も月1回のペースで続

いており、その成果は注付き訳として、2010年から英語英文学会誌『アスフォデル』(45-56号)に掲載されている。

埋葬地における墓碑建立

筆者は帰国後のスタークウェザーの消息についても研究を進め、ウィスコンシン大学史料研究所及びパサデナ史料館研究員の助けを借りた調査の結果、イリノイ州→コロラド州→カリフォルニア州サンディエゴ在住(1920年から30年の間に死亡)までは辿り着いていたが、死亡年月日は突き止められないままだった。

しかし、先述の八木谷氏の調査によってスタークウェザーはサンディエゴの市営墓地Mount Hope Cemeteryに埋葬されたことが判明した。墓地そのものはインターネットですぐに見つかったが、現地に行かなければ墓碑の特定は難しいかと思われた。その時、玉村三保子同窓会前会長の情報で、サンディエゴには平安教会と姉妹教会のPioneer Ocean View UCCがあることを知り、その教会の名誉牧師金田義国氏(同志社大学神学部卒)に思い切ってメールを送った。それ以後、金田牧師のご助力により墓碑建立に至った経緯については、前記「記念の集い」での牧師ご自身の動画による講演^{注3}、および『同志社同窓会報』62号(2022.5)の特集記事に委ねたい。

女性宣教師の果たした役割

同志社英学校創立期に、新島襄・アメリカン・ボード・熊本バンドが担った役割は、同志社女学校創設期には、新島襄とウーマンズ・ボードが担ったと言える。ウーマンズ・ボードは会員からの募金6000ドルで女学校最初の校舎を建設し、女性宣教師の派遣費用全てを献金した。そのウーマンズ・ボードが送った最初の女性宣教師スタークウェザーが「京都ホーム」をスタートさせ、彼女に続いて次々と派遣された女性宣教師「校長」たちが、17年間、異文化摩擦と戦いながら、キリスト教教育の基礎を築いた。彼女たちの働きを通して、現在、同志社女子大学が特色としてあげている「キリスト教主義・国際主義・リベラルアーツ」の種全てが撒かれたことになる。また、彼女たちの育てた女学校は、以後145年を超えて同じ学園内にある英学校とは異なる発展を独自に繰り返してきた。女学校史において女性宣教師が果たした役割の研究が今後ともに重要である所以である。

注1 宣教師文書の中では、「京都ホーム」以来の同志社女学校の教育および経営の責任者は女性宣教師(代表1人)と位置付けられ、「principal」または「head」と記述されている。しかし、日本側の正式文書では、新島襄が校長なので、括弧付きで表記している。

注2 筆者および「宣教師文書研究会」のスタークウェザー研究としては、例えば、以下を参照されたい。

*「米国伝道会宣教師文書—A.J. Starkweather書簡(1)～(4)」(1990-93)同志社女子大学『総合文化研究所紀要』vol.7-10

*「同志社女学校初代婦人宣教師Alice J. Starkweather—Christian Home School実現のために—」(1995)同志社女子大学『総合文化研究所紀要』vol.12

*「同志社女学校初代婦人宣教師—A.J.スタークウェザーの苦闘」(1999)現代史料出版『来日アメリカ宣教師』pp.303-326

*『女性宣教師「校長」時代の同志社女学校』上下巻(2010/2012)同志社女子大学史料センター叢書Ⅱ & Ⅲ

*「アメリカン・ボード宣教師文書—同志社女学校女性宣教師を中心として—〈スタークウェザー書簡—訳および注—〉(1)-(9)」(2010～2014)同志社女子大学英語英文学会『アスフォデル』vol.45-49

*「宣教師として来日前後のスタークウェザー(Alice Jeannette Starkweather)関連記事(1875-1877)—*The Pacific*を中心に—」(2022)『同志社談叢』42

注3 金田牧師の講演は、以下のサイトで視聴が可能である。

<https://youtu.be/qHEXUhw0eNY>(2022.4.15現在)

同志社大学障がい学生支援制度発足20年を経て未来へ —「支え合う志」をつないで—

スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室
土橋 恵美子

同志社大学は2000年に、障がい学生支援制度をスタートさせた。学生が互いに「支え合う」中で得た学びによって自律的な成長を図り、その成果をコミュニティに還元する。これが支援制度の目的である。筆者は2002年の年明けと同時に本学の障がい学生支援制度(以下、支援制度)の仕組みを確立するためにコーディネーターとして携わり、現在に至る。本稿では、これまでの約20年を振り返り、支援制度へこめた願いと大切にしてきた二つのことを記し、未来へつなげたい。

まず一つ目は、障がいのある学生が他の学生と等しい条件で教育を受けられるように保障するというスタンスである。22年前にスタートした本学の支援制度は、当時、学ぶための支援を求めた学生たちの声が制度の発足に繋がった。発足20周年記念シンポジウム(2021年8月7日開催)の鼎談でお話いただいた秋山奈巳さんや館林千賀子さんの声である。

秋山奈巳さんは、本学におけるソフト面の充実を、館林千賀子さんは、ハード面の整備に大きく貢献してくださり、「障がいのある学生が他の学生と等しい条件で教育を受けられるように保障する」という現在の合理的配慮(授業保障および情報保障)の考えが生まれた。障害者差別解消法施行(2016年4月)後、この考えは当たり前のこととなったが、当時の当事者である学生たちの存在は、本学の障がい学生支援に極めて大きなインパクトを与え支援の基礎を固めた。

筆者がコーディネーターとして本学とご縁をもったのは、ろう者である秋山さんが入学したことがきっかけである。秋山さんは、本学入学前、米国にあるろう者のためのギャローデット大学へ留学されていた。そこで、ろう者であることの誇りと権利意識を持つことの重要性に触れ、再び、日本で大学進学を目指し2001年に同志社大学に入学された。しかし、当時は制度が整っておらず、秋山さんは、入学した2001年に、手話サークルの有志学生たちとともに大学宛に要望書を提出した。それは、本学の障がい学生支援制度の充実にむけた、非常にシンプルな願いであった。

『情報保障をしてください!私は、ただ他の学生と同じように勉強をしたいだけなのです』と。

ちょうどそのころ、日本の手話通訳者の草分けとして長年活躍されてきた伊東雋祐(いとうしゅんすけ)先生が、1937年にヘレン・ケラーさんが同志社女子部で講演なさったときに手話通訳をされたこと、またご子息である伊東恵司さんが支援制度発足当時の学生部学生課の職員だったことから、手話のできるコーディネーターとして筆者に声をかけてくださった。コーディネーターとしての最初の仕事は、手話通訳やノートテイクという手書きの要約筆記による情報保障のコーディネートであった。併せて、学外支援者の協力を得て、当時最先端のパソコン入力による通訳支援も取り入れた。

秋山さんの、「ただ他の学生と同じように勉強をしたいだけなのです」という願いを、支援制度で対応すると決定したことは、現在の障がい学生の修学に関する合理的配慮につながる布石となった。そして、障がいのある学生が他の学生と等しい条件で教育を受けられるよう、授業保障、情報保障を行うことに力を注いだ。これが大切にしたことの一つ目である。

もう一つ、制度の柱として大切にしたのは、マインドである。生身の人間が支援する・される関係である限り、本人が求めているのは、質のみとは限らない。『精度が高く、かつ適切な支援』は、支援する・される両者の度重なる対話と協働作業によって生まれる。学生部として、学生の成長という観点から支援制度を捉え、支援される一人の学生だけでなく、その一人の学生をサポートする多くの学生にも学びがあり、相互の支え合いによって本学ならではの支援マインドが生まれる。この考えが、支援する・される双方の学生の自律的成長を目指す『同志社マインド』である。

『同志社マインド』を涵養(かんよう)するプログラムの一つに、2005年からスタートしたChallengedキャンプがある。このキャンプは、障がいのある学生と寝食を共にし、また障がい体験を通して、障がいへの理解と、体験者が心のバリアに向き合い心身ともに成長することを目的として始まった。きっかけは、車イスに乗っている学生が「海は遠くから見ると」と言ったことである。筆者は海は遠くから見ただけではないと思うと同時に、車イスユーザーと一緒に浜を歩き、貝殻を拾い、海水に足をつけたいと願った。そして、その願いが叶ったとき、参加学生たちの心に何が起こるのか見てみたいと考えたのである。

下の写真は、2011年度のキャンプ(石川県の能登千里浜)の集合写真である。砂浜の近くでバスを停めて自由時間を設けた。バスから降りて潮風を全身で感じているうちに、参加者の一人が、車イスの学生をおんぶしたと思ったら、そばにいた参加者が二人を支え、一緒に海水を触り、足をつけた。それを見た他の参加者もキャッキヤ言いながら追いかけて、海に向かっていった。一人の障がい学生が、多くの参加者にイノベーションを起こした瞬間であり、障がい学生とキャンプ参加者という関係から、キャンプを一緒に楽しむ仲間になった瞬間であった。その後も「親やヘルパーさんではなく、友だちと旅をしてみたい」「生まれて初めて包丁を持って、ピーマンを切った」「キャンプファイヤーの炎を初めて直接見た」といった障がい学生の言葉が私たちの心に衝撃を与えてくれている。

本学の障がい学生支援では、このように「ただ他の学生と同じように勉強をしたいだけ」という、学びに関わる権利保障は必須としつつも、「海は遠くから見ると」「友だちと旅をしてみたい」と話す学生が、他の学生と関わりながら「大学生の日常」を経験することで、お互いに気づきを得ること、言い換えれば、マインドの涵養も「教育機関としての役割」として重視していることが特徴といえる。

障がい学生支援室は、2021年4月にスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室へ改組され、その役割は一層広範になったが、これまで蓄積してきたノウハウとマインドを礎に、これからの学生支援を「ダイバーシティ」と「アクセシビリティ」の両側面から取り組み発展させていきたい。

本稿は、学生支援機構学生支援センターと同志社社史資料センターが共催した「ハリス理化学館同志社ギャラリー第22回企画展『支え合う志』をつないで―障がい学生支援制度発足20周年―」が契機となり、制度発足以降の20年の振り返りをまとめたものである。



資料業務

1. 資料整理

1. 資料業務

・収蔵資料

遺品庫	6,604点
資料室	14,087点
整理済み資料	52,364点

・蔵書冊数

図書	13,225冊
逐次刊行物	1,244タイトル

2. 参考業務

・レファレンス数	679件
文献調査	204件
事項調査	441件
その他	34件

2. 資料提供(写真資料を中心に)

NPO法人大磯ガイド協会	：	福島民友新聞社
HBC北海道放送	：	株式会社第一印刷
桜美林学園 学園史編纂室	：	株式会社本作り空Sola
大阪よみうり文化センター	：	株式会社ネクサス
株式会社ひでみ企画	：	株式会社エディットプラス
学校法人河合塾 教育企画開発部著作権管理チーム	：	東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
京都社会福祉問題研究会	：	メディアジャパン株式会社
株式会社現代ぷろだくしょん	：	株式会社トスプランニング

博物館実習の受け入れ

【同志社女子大学「博物館実習」受け入れについて】

本年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、例年通り3名の学生を受け入れ、8月2～6日の5日間、毎日6時間の実習を行った。実習初日に、各自で紹介したい資料を1点選出して、最終日に展示案にまとめてプレゼンテーションを実施してもらうことを周知し、これを目標として、大学アーカイヴズに関する座学(主に同志社におけるアーカイヴズ活動と展示活動の意義と具体的事例の紹介)及び企画展を企画・立案・設営に関する実習(展示の企画立案過程の説明と実践、資料調査の方法と美術梱包の実践、展示替え補助)を行った。



『同志社百五十年史』編纂

『同志社百五十年史』編纂の進捗状況

同志社創立150周年記念事業の一環として、『同志社百五十年史』の編纂が進行中である。全3巻で、第1、2巻は通史編、第3巻は部局編となる。同志社の年史としては初の部局編である第3巻は、創立150周年を祝う2025年度に通史編に先駆けて刊行予定である。2022年3月末現在、第3巻執筆者が一部を除き決定している。変転著しい社会状況への対応に迫られる昨今、創立150周年を機に学校法人同志社の各部局、学校、関係団体が揃ってこれまでの歩みを振り返り原点を見つめなおすことで、50年、100年先へと前進する足がかりと展望を見出し得る部局編となることを目指す。

本編纂事業では、2018年3月からの編纂準備委員会を経て2020年7月に発足した編纂委員会のもと、各巻編纂員と編纂補助員が実務を担当する。また資料調査としては、2020年12月から主に『日出新聞』(『京都新聞』の前身)のマイクロフィルム記事検索に取り組んでいる。2022年3月末現在、1885(明治18)～1901(明治34)年までの検索を終え、約7,000件の同志社関連記事データを抽出、保存済みである。今後、百五十年史編纂担当者は社史資料センターの社史資料調査員、事務室スタッフと一層連携し、執筆者からの問合せ等への対応にも努めていく。

展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第22回企画展

テーマ：「支え合う志」をつないで―障がい学生支援制度発足20周年―

期 間：2021年3月19日(金)～2021年5月23日(日)

主 催：同志社大学学生支援機構学生支援センター障がい学生支援室
同志社大学同志社社史資料センター

協 力：全国高等教育障害学生支援協議会(AHEAD JAPAN)
大学コンソーシアム京都、日本学生支援機構(JASSO)、日本財団、
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

来場者数：3,015人

実施日数：52日



第23回企画展

テーマ：平安遷都前の京都盆地―飛鳥・奈良時代のムラと寺―

期 間：2021年10月22日(金)～2021年12月5日(日)

主 催：同志社大学歴史資料館

来場者数：4,097人

実施日数：37日



第24回企画展

テーマ：旧制から新制へ―同志社大学の挑戦―

期 間：2022年1月25日(火)～2022年3月27日(日)

主 催：同志社大学同志社社史資料センター

来場者数：2,962人

実施日数：53日



特集展示

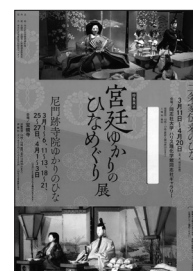
テーマ：宮廷ゆかりのひなめぐり展

期 間：2022年3月11日(金)～2022年4月20日(水)

主 催：同志社大学歴史資料館

来場者数：1,577人(2022年3月31日現在)

実施日数：35日



常設展示室「同志社の今」特別陳列

第33回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会後期展

期 間：2021年10月12日(火)～2021年10月20日(水)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

来場者数：420人

実施日数：7日



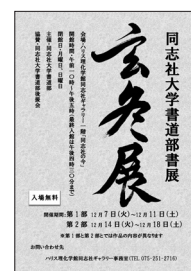
第34回

テーマ：同志社大学書道部 二回生展「継」
期 間：2021年10月26日(火)～2021年11月2日(火)
主 催：同志社大学書道部
来場者数：589人
実施日数：7日



第35回

テーマ：同志社大学書道部書展「玄冬展」
期 間：2021年12月7日(火)～2021年12月18日(土)
主 催：同志社大学書道部
来場者数：623人
実施日数：10日



第36回

テーマ：同志社大学グローバル・コミュニケーション学部
虹プロプレゼンツ「写真展」
期 間：2021年12月17日(金)～12月18日(土)
主 催：同志社大学グローバル・コミュニケーション学部虹プロジェクト
来場者数：261人
実施日数：2日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「今につづく新島旧邸の姿」をテーマに、新島旧邸関係資料（レプリカ）、写真パネルおよび旧邸模型を貸出

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展への展示協力

上記で実施された第12期展「新島襄のGo Global—海を越えて—」（会期：2021年3月～2021年9月）、第13期展「同志社のGLOCAL—京田辺とのあゆみ—」（2021年9月～2022年3月）において企画立案、準備設営に関して協力

「モダン建築の京都」への展示協力

京都市京セラ美術館が主催する上記企画展（会期：2021年9月25日～2021年12月26日）へ同志社関連資料画像等22点を提供

「スタークウェザーと山本覚馬—創設期における新島襄の同志たち—」への展示協力

同志社女子大学史料センターが主催する上記企画展（会期：2021年11月19日～2022年7月29日）へ同志社関連資料画像等29点を提供

地域協力

- ・2021年10月8日(金)～10月11日(月)源氏藤袴会主催の2021年香りが誘う京都の文化と歴史「藤袴祭」でスタンプラリー動画撮影(Webサイトに掲載)に協力



公開講演会

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「旧制から新制へー同志社大学の挑戦ー」公開講演会

演 題：新制大学とキリスト教主義学校

講 師：大迫 章史氏(東北学院大学教養学部准教授)

日 時：2022年2月26日(土) 13:00～14:30

場 所：Zoomによるオンライン開催



研究活動

第1部門研究(新島研究)の研究会や機関紙の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井和彦)

第194回例会	2021年4月12日(月) 『新島研究』111号論評会 「新島襄の蘭学」 報告者：三好 彰 論評者：大鉢 忠 「セイヴォリー船長と箱館の商人ウィルキー」 報告者：八木谷 涼子 論評者：井上 勝也 『新島研究』112号論評会 「黎明期の頌栄と同志社～頌栄創立者アニー・ライオン・ハウを中心に～」 報告者：森田 喜基 論評者：森 一郎
第195回例会	2021年5月10日(月) 「新島の2つの英文自叙伝の日本語訳の研究 その1『日本脱出の理由』」 報告者：大越 哲仁
第196回例会	2021年6月14日(月) 「新島襄の函館脱国の謎～私の疑問と仮説(脱国ルートと時間を含む)」 報告者：田島 繁
第197回例会	2021年7月12日(月) 「新島襄が英書で学びなおした航海学」 報告者：三好 彰
第198回例会	2021年8月7日(土) 企画テーマ「同志社にとっての1876年」 司会：横井 和彦 企画報告1「一日研究会のエピローグ」 報告者：本井 康博 企画報告2「熊本バンドの同志社英学校への入学(1876年7～9月)」 報告者：大越 哲仁 企画報告3「余科(神学科)設置と初期神学教育における相克 —熊本バンド、アメリカン・ボード、新島襄を巡って—」 報告者：小崎 眞 企画報告4「女学校の開校」 報告者：工藤 尚子 企画報告5「教会の設立&エピローグ」 報告者：本井 康博
第199回例会	2021年10月11日(月) 「青年新島とH.S.テイラー船長」 報告者：伊藤 彌彦

第200回例会	2021年11月8日(月) 「同志社大学神学科の日本基督教団立神学校への統合拒否とその時代の『新島精神』」 報告者：森田 喜基
第9回同志社 を語る会	2021年12月13日(月) 「神棚事件とチャペル籠城事件—配属将校の煽動によって起された両事件が端緒となっ て、ファシズムは同志社を存亡の危機に陥し入れた—」 報告者：金 泰成
第201回例会	2022年1月17日(月) 「湯浅初と人見一太郎—対獄逸人論述『倫理之基』を手掛かりとして—」 報告者：山下 智子
第10回同志社 を語る会	2022年3月14日(月) 「快風丸をさかのぼる—米国税関監視艇が日本に来るまで—」 報告者：八木谷 涼子

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2021年度)

横井 和彦(代表)、生田 香緒里、小崎 眞、工藤 尚子、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、
大鉢 忠、大島 中正、佐藤 友亮、竹山 幸男、Nicholas John Teele

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第113号 A5判 204頁 2022年2月12日発行

論 叢	シンポジウム「同志社にとっての1876年」 一日研究会のプロローグ 熊本バンドの同志社英学校への入学(1876年7~9月) 余科(神学科)設置と初期神学教育における相克 —熊本バンド、アメリカン・ボード、新島襄を巡って— 女学校の開校 教会の設立&エピローグ 新島襄が英書で学びなおした航海学 新島襄と『聯邦志略』	本井 康博 大越 哲仁 小崎 眞 工藤 尚子 本井 康博 三好 彰 三好 彰
研究ノート	新島襄が箱館で葬送を見送ったポルトガル領事ケースについて 福士成豊の雇い主・箱館の商人アレクザンダー・P・ポーターの 生没年月日、および来日前の履歴	八木谷涼子 八木谷涼子
コ ラ ム	新島襄の函館脱国の謎~私の疑問と仮説 —脱国ルートと同予想時間(私案)を含む 新聞の船舶情報に見る1865年のワイルド・ローヴァー号	田島 繁 八木谷涼子
追 悼	萩原俊彦氏 追悼 萩原俊彦先生の思い出 新島襄研究グループ第2世代の萩原俊彦先生 大学院修士課程の先輩萩原俊彦先生 西田 毅氏 追悼 西田毅先生のゼミで学んで	井上 勝也 大鉢 忠 吉田 曠二 林 葉子

西田毅先生と日本政治思想史研究 追悼 西田毅先生	出原 政雄 大越 哲仁
エッセイ 『JOE一千里を馳す』について	石村えりこ
シナリオ 『JOE一千里を馳す』	石村えりこ

『新島研究』編集委員会(2021年度)

横井 和彦(代表)、生田 香緒里、小崎 眞、工藤 尚子、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、
大鉢 忠、大島 中正、佐藤 友亮、竹山 幸男、Nicholas John Teele

3. 機関誌

『同志社談叢』第42号 A5判 250頁 2022年3月1日発行

論 叢 青年新島襄とH・S・テイラー船長 同志社とイエール大学——一九〇一年前後の留学をめぐる—— 牧野虎次研究覚書——監獄教諭師時代を中心に——	伊藤 彌彦 小川原正道 室田 保夫
資料紹介 「池袋清風日記 明治二十二年」資料紹介・翻刻(一) 増野悦興の晩年の『日記』と日本同仁基督教会(二) 同志社大学同志社社史資料センター所蔵 「創立六十周年記念募金計画」解題	富田知恵子 滝澤 民夫 柏居 宏枝 八木 智生 星山 真慶
宣教師として来日前後のスタークウェザー (Alice Jeannette Starkweather) 関連記事(1875-1877) —The Pacificを中心に—	坂本 清音
目 録 新島襄関連の文献目録(40) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2021年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、物部 ひろみ、大島 中正、山下 麻衣、横井 和彦

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第17号(2020年度)

(2021年4月発行)

『2021年度 新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2022』

(2022年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』編集委員会(2021年度)

工藤 尚子(委員長)、小崎 眞、本井 康博、Nicholas John Teele

第179回 新島襄生誕記念会

日時：2022年2月14日(月) 17：30～19：00

場所：同志社礼拝堂

表彰

第29回新島研究功績賞

石村 えりこ(脚本家)

八木谷 涼子(著述家)

新島襄生誕記念懸賞論文(2021年度)

【中学校の部】

最優秀賞

大井 もあ(同志社中学校1年)

「曲げない信念～柏木義円から学ぶこと～」

優秀賞

松本 奈美(同志社中学校1年)

「創立150周年を間近に迎えて～200年構想の実現に向かって～」

佳 作

服部 祐輝(同志社女子中学校1年)

「中国の女子教育に尽くした清水安三～キリスト教主義と語学教育～」

曾我部 紫花(同志社女子中学校1年)

「新島襄が妻の八重にみたハンサムについて考える」

山口 芽依(同志社女子中学校1年)

「新島襄が目指した自分の理想の姿とは」

【高等学校の部】

最優秀賞

中山 真里奈(新島学園高等学校3年)

「新島襄と坂本龍馬の『洗濯』」

優秀賞

川島 りえ(同志社女子高等学校3年)

「昨日の敵は今日の友～和製版パウロ 松山高吉が綴った神への想い～」

佳 作

井上 はるか(同志社女子高等学校3年)

「留岡幸助と感化事業～志が現代に繋いだもの～」

藤井 綜汰(新島学園高等学校3年)

「良心教育から考える法規制の在り方～新島襄とローレンス・レッシング～」

【大学・短期大学・大学院の部】

優秀賞

星山 真慶(同志社大学3年)

「時危うくして偉人を思う」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。



開館時間 10:00～17:00(入館受付は16:30まで)
 閉館日 日曜日(企画展開催中は開館)、月曜日、祝日、
 ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
 実施日数 260日(企画展示室は132日)

2021年度入館者数(2021年4月1日～2022年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	2,162人	1,328人	1,441人	1,701人	1,122人	1,064人
同志社のあゆみ	793人	397人	401人	498人	389人	360人
企画展示室	1,322人	699人	—	—	—	—
京都の中の同志社	1,044人	728人	738人	965人	666人	634人
同志社の今	989人	567人	806人	671人	580人	558人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	3,144人	3,652人	3,260人	1,649人	1,924人	3,759人	26,206人
	918人	1,222人	970人	666人	741人	1,330人	8,685人
	1,021人	2,479人	858人	155人	940人	1,867人	9,341人
	1,403人	1,524人	1,210人	756人	612人	1,577人	11,857人
	1,564人	1,372人	1,136人	623人	655人	1,359人	10,880人

新島旧邸

1875(明治8)年11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878(明治11)年に建てられた。1985(昭和60)年6月1日に建物が京都市から有形文化財に指定され、翌年6月2日に家具57点が、さらに1993(平成5)年4月1日に付属屋と門が追加指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲から建物内部を見学に留め(建物内への入場は不可)、特別公開のみ、母屋1階と付属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00(入館受付は15:30まで)
 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土(祝日を除く)
 特別公開 4月1日～5日、同志社創立記念日

※新型コロナウイルスの感染予防・拡大防止のため、オープンキャンパス開催日、秋の特別公開期間、卒業式開催日の公開は中止

2021年度見学者数

4月	5月	6月	7月
312人	10人	35人	141人
9月	10月	11月	3月
7人	434人	747人	341人
合計	期間外		
2,080人	53人		



委員会

同志社社史資料センター委員会(2021年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
大島佳代子	教務部長	庄司 春子	中学校・高等学校教諭
西岡 徹	事務局長	藤井 宏樹	香里中学校・高等学校教頭
小山 隆	人文科学研究所所長	酒井 由行	女子中学校・高等学校教頭
菊田 千春	歴史資料館長	西田喜久夫	国際中学校・高等学校教頭
朝田 邦裕	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
柳井 望	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会(2021年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	菊田 千春	歴史資料館長
大島佳代子	教務部長	柳井 望	法人事務部長
西岡 徹	事務局長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
小山 隆	人文科学研究所所長	横井 和彦	経済学部教授

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会(2021年度)

新関三希代	副学長(委員長)	柳澤 政宏	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長	柳井 望	法人事務部長
菊田 千春	歴史資料館長	越後屋 朗	キリスト教文化センター所長
梶山 玉香	法学部長	越前 俊也	文学部教授
竹田 正樹	スポーツ健康科学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会(2021年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	中安 真理	文化情報学部准教授
若林 邦彦	歴史資料館教授	小枝 弘和	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	松居 宏枝	社史資料調査員
木谷 佳楠	神学部助教	富田知恵子	社史資料調査員(2021年5月より)
水ノ江和同	文学部教授		

徳富基金運営委員会(2021年度)

八田 英二	同志社総長・理事長(委員長)	川満 直樹	商学部教授
徳富 次郎	社友	柳井 望	法人事務部長(幹事)
小林 丈広	文学部教授(同志社社史資料センター所長)		

『同志社百五十年史』編纂委員会(2021年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学史料センター長
山田 史郎	文学部教授	柳井 望	法人事務部長
大島 中正	女子大学表象文化学部教授		

同志社社史資料センター(2021年度)

所長	小林 丈広
事務室	事務長 太田 博之 (2021年5月より)
	係長 竹森 宏和
	社史資料調査員 小枝 弘和
	社史資料調査員 松居 宏枝
	社史資料調査員 富田知恵子 (2021年5月より)
	『同志社百五十年史』 編纂員 阿部奈緒美
	『同志社百五十年史』 編纂員 日和 由希

事務室

『同志社百五十年史』 編纂補助員	志賀 祐紀
『同志社百五十年史』 編纂補助員	山口 潔子
『同志社百五十年史』 編纂補助員	熊田 圭太
契約職員	土井真由美
アルバイト	3名
研究補助員	1名
資料整理	学生アルバイト 交代勤務 大学院生 13名登録 学部生 26名登録

同志社社史資料センター利用要項

2009年 5月19日制定
2010年 5月20日改正
2012年 2月20日改正
2021年11月17日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という。）が所蔵する資料等（以下「資料等」という。）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損又は汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する法律」並びに「個人情報保護の基本方針」及び「同志社個人情報保護規程」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料のうち以下のものについてはア)に準ずる。
 - ①没後50年未満のもの
 - ②故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めたときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写・撮影)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム（DOORS）に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出を認められる者は、以下とする。

- (1) 同志社大学学生・教職員
- (2) 同志社女子大学学生・教職員
- (3) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- (4) センターが設置する部門研究の参加者
- (5) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数及び貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失・汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物又は現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- (1) 同志社関係資料の検索
- (2) 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

(附則)

この要項は2021年11月17日より施行する。

同志社大学

同志社社史資料センター報 第18号

発行日 2022年4月30日

編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<https://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：新島旧邸に残る鑄鉄製ストーブ

1932(昭和7)年に新島八重が亡くなった後、遺品を遺言状により遺贈された広津家から新島旧邸へ寄附された物品の目録にある「ストーブ及附属品」と考えられる(同志社校友同窓会報 昭和七年十一月十五日)。火ばさみなどの附属品も残る。ストーブ本体上部には「EXCELSIOR No.5」の鑄出し文字がある。